

主の公現

2014年1月5日 9:30 ミサ

オリビエ・シェガレ

(パリミッション会司祭)

マタイ 2・1-12

今朗読された福音の箇所の中に遠い東から旅に出て来て、救いを求める3人の占星術学者が登場します。3人の占星術学者はおそらくバビロン、今のイラクに当る国の人だったでしょう。皆さん占星術がお好きですか。数年前から星の占いは日本の若者の中に流行していますが、半分遊びでやっているでしょう。ご存知のように、占星術は紀元前2000年前バビロンにはじまり、旧約聖書では度々言及されています。優れた数学者であったバビロン人の天文学では、今日のいわゆる「12星座」のもとになるものの基礎が作られました。惑星の観察と解釈にも関心を持ち、木星が現れるとき「金持ちになり、長生き」し、土星が現れるとき「病気となり、不自由」となるといったような現代の占星術の惑星の意味とほぼ重なるような解釈をしていました。当時宗教と科学の分離はなかった時代です。古代の人にとっては星の動きには、科学法則だけではなく、神様の意志が示されていました。神の摂理は天体の運行によって定められていると信じていたので、お空を見て星の動きを解釈する活動は皆の幸福へ掛かっている大切な職務でした。また特別な知識を持っていた占星術学者は、学者だけではなく、宗教の礼拝にも、政治にも携わり、国のこれからの方向を定めたので、大司祭と王のような高い地位が認められ、国の支配者でした。しかし今日の福音書に出る3人の占星術学者は学問や権力だけに心が捕われていません。彼らは全ての星を照らすような根源的な星の輝き、天の彼方に輝いている目に見えない方の光を探し求めていました。

この方の星をやっと発見したと思えた時に、彼らは全てを棄てて、長い旅を初め、エルサレムにたどり着きます。彼らをそこに導いていたのは、目に映った星だけではなく、耳の記憶に残っていたイザヤ預言者の言葉でもあったでしょう。丁度バビロンの捕囚からエルサレムへの帰還がゆるされたイザヤの言葉です「エルサレムよ、起きよ、光を放て。貴方を照らす光は昇り、主の栄光は貴方の上に輝く。国々は貴方を照らす光に向かって歩む」。全世を照らす星の光があるとすれば、エルサレムの都の上に見つかるに違いないと思っていたでしょう。しかし皮肉なことに、華やかな都の上を通る瞬間に星が消えました。そして学者が都に入ってみたら、暗闇の社会しかなかったのです。彼らが出

会ったのは、ヘロデを始め、狡猾で残虐な政治家、献金を名目に貧しい民衆を搾取する司祭、律法の文字だけを重んじて、人々に重い負担を負わせる思いやりのない律法学者。後者は神のことなら何でも知っていると思い込んでいて、神を求める心がなく、本の知識だけに関心をもって生きています。本に書いてあるから救い主はベトレエムに生まれるはずだと教えますが、口だけで言って、彼らはそこに行こうとはしません。3人の学者は律法学者の指示に従って新たな旅に出ますが、不思議なことにエルサレムを出た途端に星の輝きが再び見えます。大喜びの3人はその星に導かれて、暗い田舎にある小さな村の家に隣接した馬小屋、全く予想していなかったところにたどり着きます。彼らの探し求めていた救い主は華やかな都ではなく、何の飾りもない質素な場所におられました。そこは、動物の外に、母と父に囲まれた無力、無防備の赤ちゃんがあり、その上に3人の学者がずっと求め続けていた神の栄光がありました。

この感動的な話は美しい童話だけではなく、対処王的に描かれている政治家や律法学者と救いを求めている3人の占星術学者を通して世界の人々の姿が映されているような気がします。2千年前のヘロデの時代と同様に、現代の多くの人は、強い政治に、物質の豊かさに、本の知識に、ご利益宗教に救いを求めています。又、科学技術万能の時代にあって、多くの人は科学の進歩に全ての希望を置き、科学の知識のお陰で、まだわからないことは全て解明され、病気と死が乗り越えられ、人類に幸福が与えられ救われると信じます。しかし少数者かもしれないが、幸いに真の政治家、真の科学者もいます。彼らは政治と学問の価値を認めながら、政治が良くなっても、科学の研究が進んでも、その限界があることを知り、この世を動かす、この宇宙を照らす奥深い神秘の光を信じ、それを謙虚に求め捜しています。教会に来ている私たちはどっちに似ているのでしょうか。信者だから神様のことを知っていて捜さなくてもいいと言ったら、律法学者のように傲慢で、救いを受ける心の用意がないことになります。私たちが善意があるこの世界の人々と一緒に真の光を常に探し求めていきたい。私たちは暗い時代のなかにあっても、輝いている小さな愛の星、希望のしるしを見分けるように招かれています。そしてそのような星を見つけた時に、3人の占星術学者のように、全てを棄てて、その星の導きに身を委ね、信仰と愛の旅に出かける心の用意をしてみたいと思います。また救い主の星はパリ、ロンドン、ニューヨーク、ローマ、欧米の華やかな都会や有名な巡礼地に必ずあるとはかぎらず、アジアやアフリカのスラム街や貧しい農村、日本東北の漁村に輝いているかもしれません。そこで物質の豊かさよりも、義と平和のために闘い、救いを求める人々の共同体の中に救い主が生まれてくるでしょう。

今日こそ救いを探し求めている人々と共に救いを願い、神の栄光の輝きを見る旅を始める勇気と希望が与えられますように祈ります。